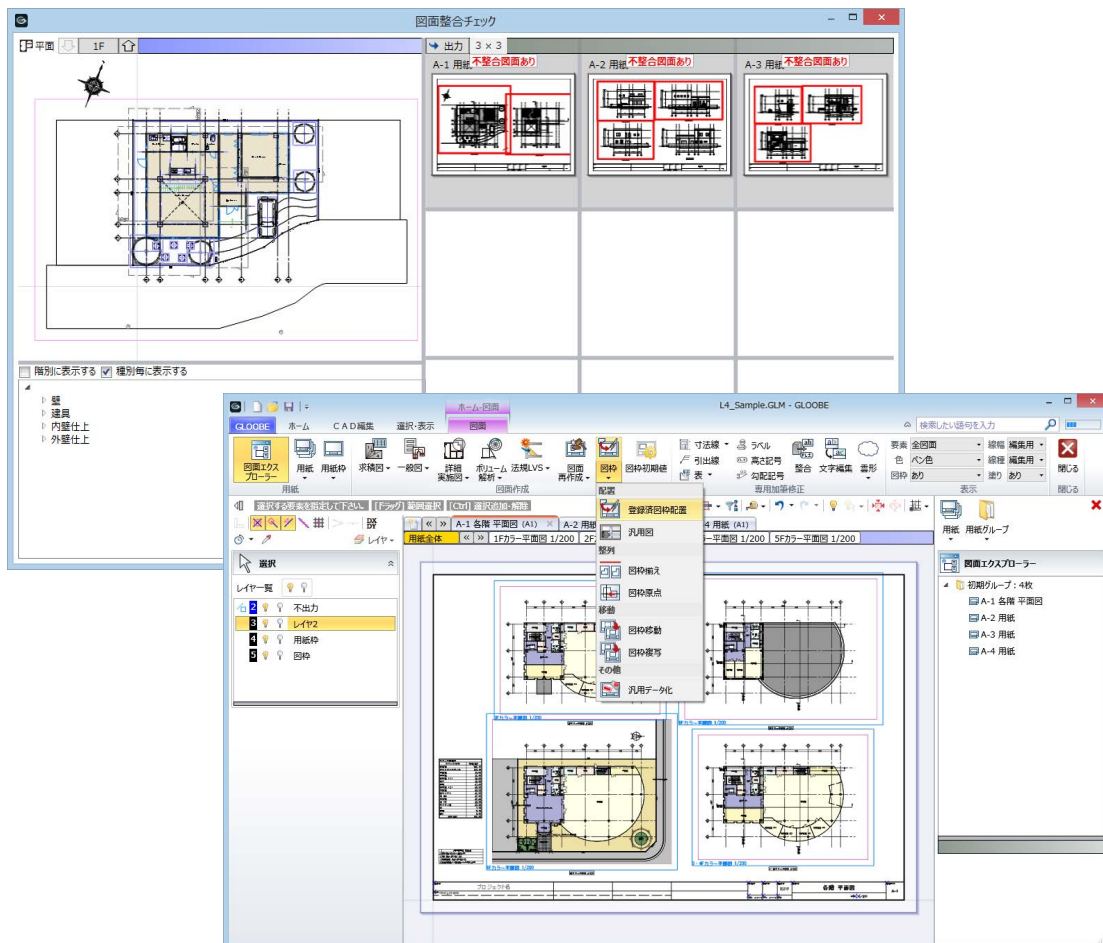


目的別マニュアル

[図面編集編]



目次

1 加筆修正	3	5 印刷	22
1-1 生成した図面の加筆	3	用紙を印刷するには	22
専用加筆修正と 2D 汎用機能	3	用紙の大きさに合わせて縮小印刷するには	22
加筆するときの注意点	3	連続印刷するには	23
専用コマンドを使って加筆する	4		
汎用コマンドを使って加筆する	5		
1-2 生成した図面の編集	7	6 汎用データ化	24
オブジェクトのプロパティを変更するには	7	図面を汎用データ化するには	24
オブジェクトの編集を専用加筆に反映するには	7		
専用加筆の文字列を編集するには	7		
オブジェクトの要素を個別に編集するには	8		
表を編集するには	8		
2 編集後の図面の再作成	9		
2-1 図面整合チェック	9		
モデルの変更に伴う図面の整合を確認するには	9		
マーキングされた図面を再作成するには	10		
2-2 部分的な再作成	11		
モデル変更箇所を部分的に再作成するには	11		
2-3 編集箇所のロック	12		
保護したい部分をロックするには	12		
ロックデータを含む図面を再作成するには	13		
3 部分詳細・納まり図などの配置	14		
部分図を配置するには	14		
4 図面構成の調整	16		
4-1 図面の移動	16		
図面を用紙間で移動するには	16		
図面の位置を合わせるには	17		
4-2 用紙の編集	18		
他のファイルから用紙を合成するには	18		
用紙の名称・番号を整えるには	19		
用紙グループを作成するには	20		
用紙の順番を整えるには	21		

1 加筆修正

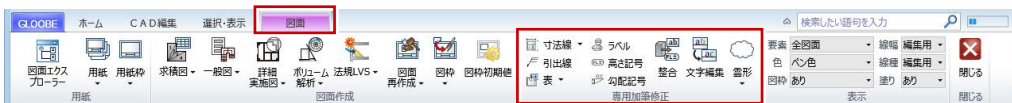
ここでは、図面を加筆修正する操作や注意点について解説します。

1-1 生成した図面の加筆

専用加筆修正と 2D 汎用機能

加筆に使用するコマンドは、

- 専用コマンド：「図面」タブ（GLOBE シートの場合は「ホーム」タブ）の、「専用加筆修正」グループのコマンド



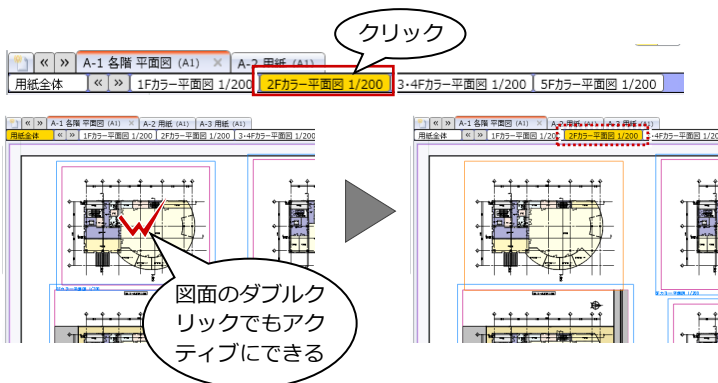
- 汎用コマンド：「CAD 編集」タブの、主に「点・線・塗り」～「付記」グループのコマンド



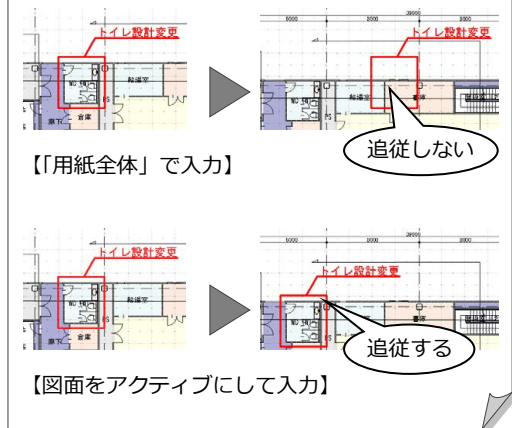
の 2 種類があります。

加筆するときの注意点

専用コマンド・汎用コマンドのどちらを使用する場合も、必ず加筆する図面をアクティブにしてから操作します。



アクティブにすると、加筆したデータはアクティブにした図面に属し、図面の移動や縮尺変更などに追従します。
例えば、汎用データ（赤字部分）を入力後に図面を移動したとき、次のような違いがあります。



どの図面に属するか判別するには

「表示」グループの「要素」を「アクティブ図面」に変更すると、データがどの図面に属しているか判別できます。

1 加筆修正

専用コマンドを使って加筆する

専用加筆修正コマンドを使用して、引出線や表を入力してみましょう。

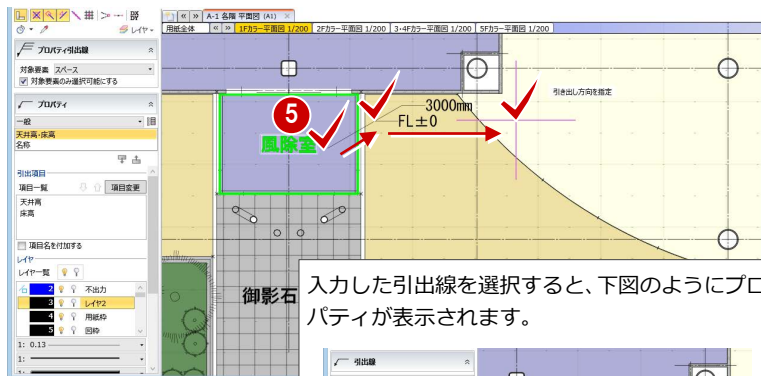
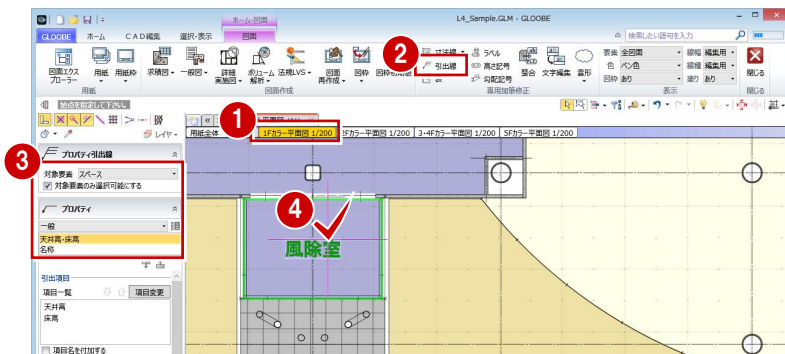
プロパティ引出線を入力する

- 1 加筆修正したい図面をアクティブにします。
- 2 「引出線」をクリックします。
- 3 引出線を表示するオブジェクト(対象要素)、テンプレートを選択します。

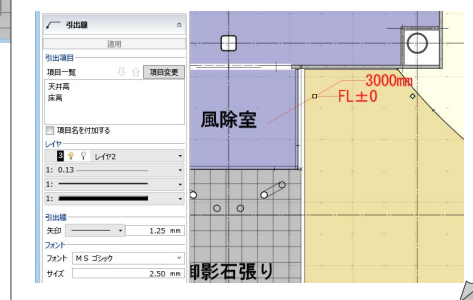
「対象要素のみ選択可能にする」がONの場合、引出線の入力時に、対象になるオブジェクトを固定することができます。

- 4 オブジェクトをクリックします。
- 5 引出線の始点、終点、文字列の方向の順にクリックします。
オブジェクトのプロパティ情報を取り込んで、引出線が作図されます。

※ 詳しい解説や、他の専用加筆修正コマンドについては、ヘルプを参照してください。



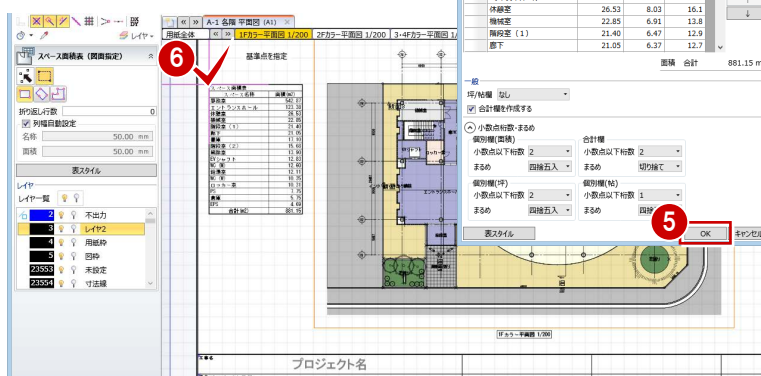
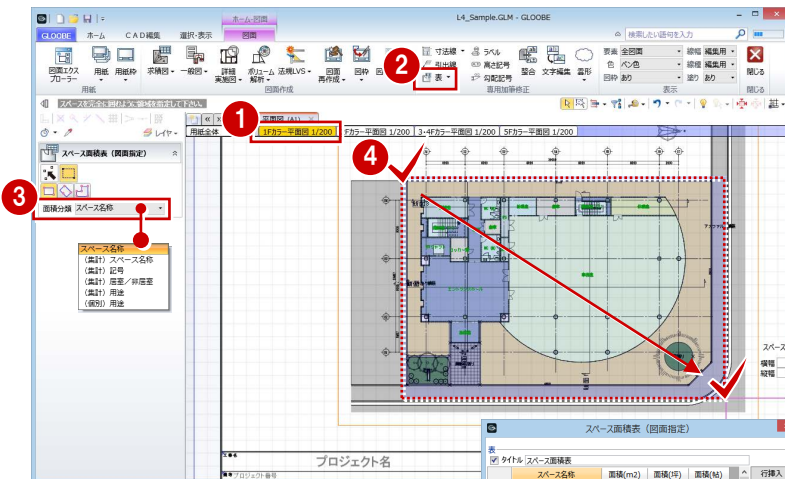
入力した引出線を選択すると、下図のようにプロパティが表示されます。



スペース面積表を入力する

- 1 加筆修正したい図面をアクティブにします。
- 2 「スペース面積表(図面指定)」をクリックします。
- 3 作表する面積の分類を選択します。
- 4 図面上で、作表するスペースがすべて含まれるように範囲を指定します。
- 5 ダイアログで面積、表記、丸めなどを確認して、「OK」をクリックします。
- 6 表の配置位置をクリックします。

入力した表はプロパティの「編集」から編集できます。
⇒ P.8「表を編集するには」参照



汎用コマンドを使って加筆する

汎用コマンドを使用して、引出線や表を入力してみましょう。

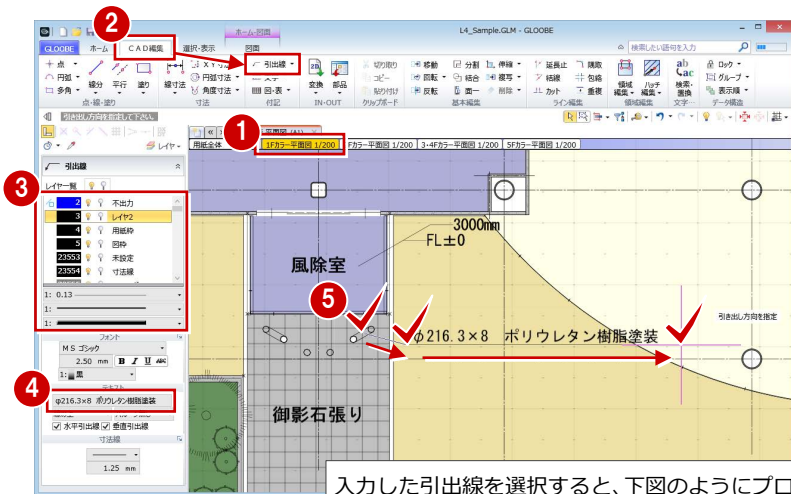
引出線を入力する

- 1 加筆修正したい図面をアクティブにします。
- 2 「CAD 編集」タブの「引出線」をクリックします。

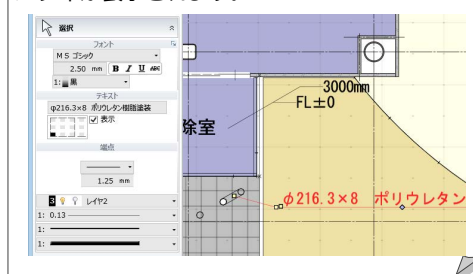
「▼」の部分をクリックすると、「引出連続線」や「複数段引出線」を選択できます。



- 3 レイヤ、線幅、線種、線色を設定します。
- 4 引出線の文字列を入力します。
- 5 引出線の始点、終点、文字列の方向の順にクリックします。

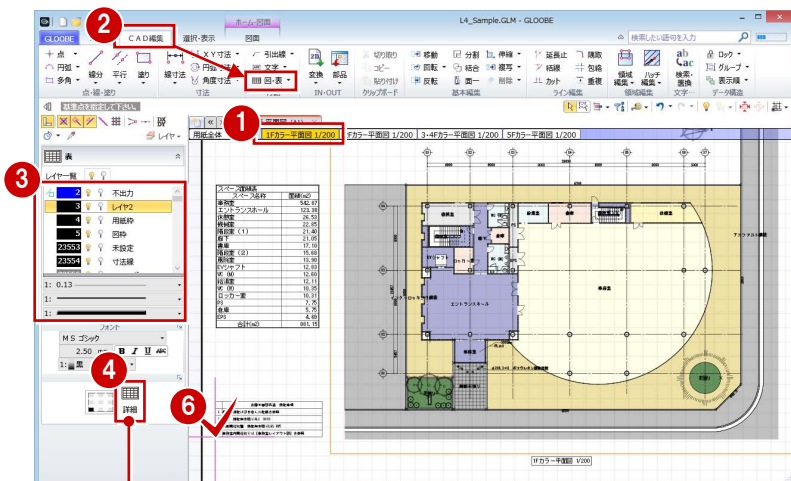


入力した引出線を選択すると、下図のようにプロパティが表示されます。

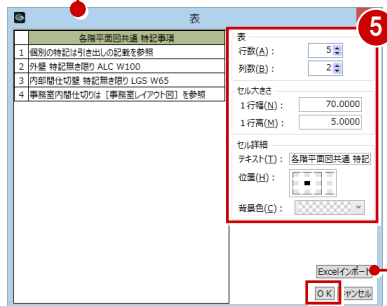
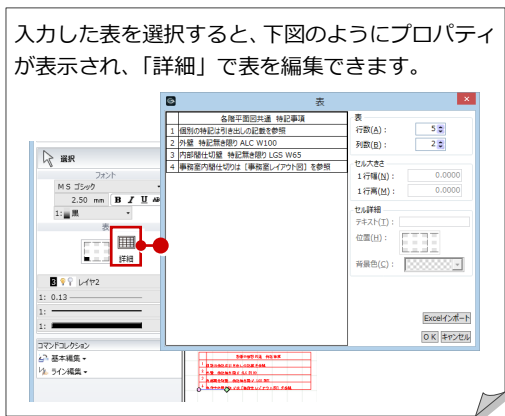


表を入力する

- 1 加筆修正したい図面をアクティブにします。
- 2 「CAD 編集」タブの「表」をクリックします。
- 3 レイヤ、線幅、線種、線色を設定します。
- 4 「詳細」をクリックします。
- 5 行数・列数を指定し、各セルの大きさやテキスト内容などを設定して、「OK」をクリックします。
- 6 表の配置位置をクリックします。



入力した表を選択すると、下図のようにプロパティが表示され、「詳細」で表を編集できます。



Microsoft Excel のデータをインポートして、表として配置することもできます。

補足 汎用コマンドの「多角」と「塗り」

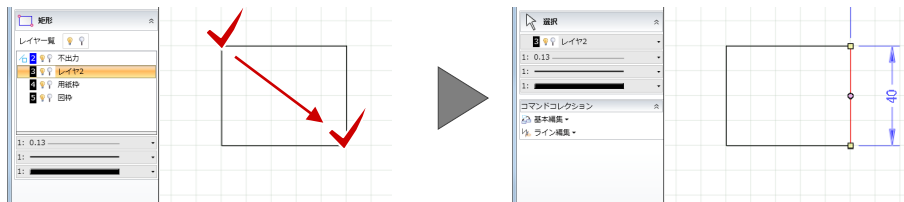
ここでは、汎用コマンドの中でも違いがわかりづらい「多角」と「塗り」について解説します。その他の汎用コマンドについては、ヘルプを参照してください。



■ 「多角」

多角形の枠線を入力します。

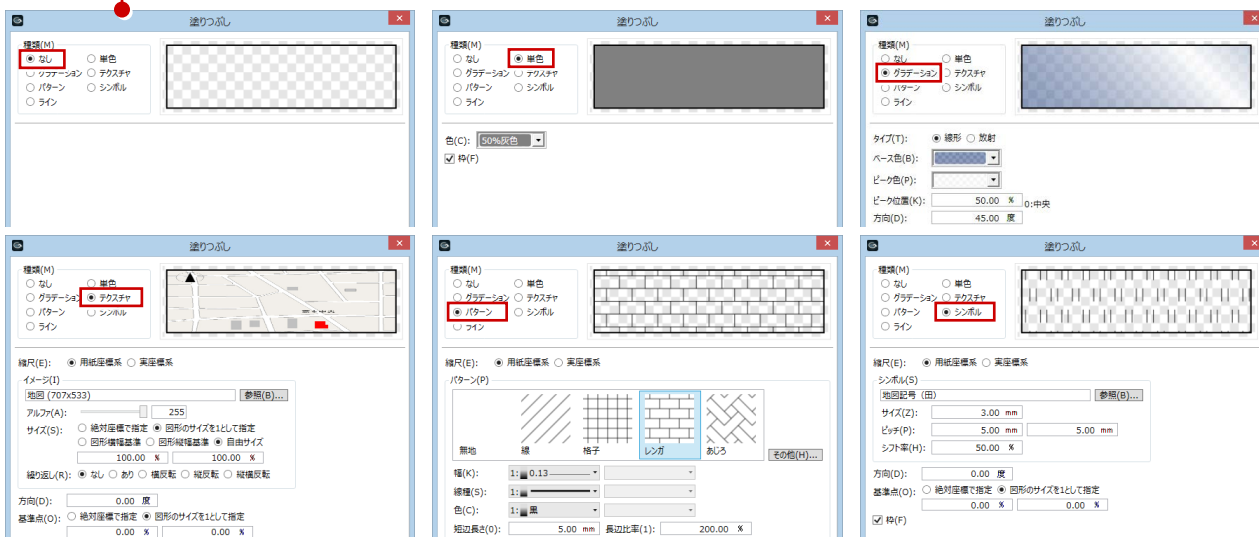
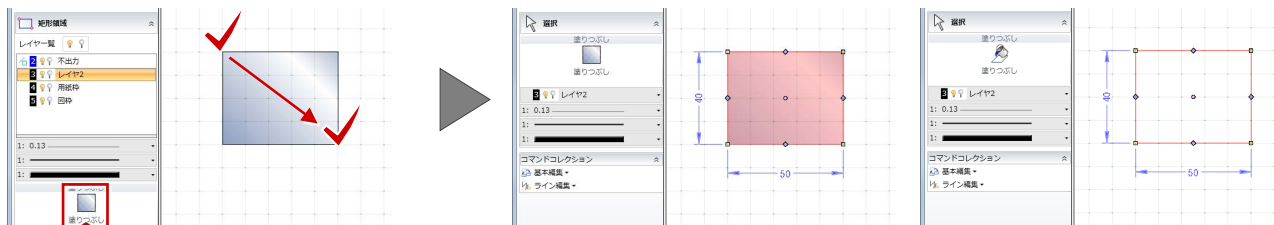
個々の線分または円弧がグループ化された状態で入力されます。



■ 「塗り」

多角形の領域を入力します。

「塗りつぶし」をクリックすると、領域内を塗りつぶしやハッチングで描画したり、画像ファイルを貼り付けたりできます。枠線は、枠全体で1つのデータになります。



なし	領域を塗りつぶさず、枠線だけを入力します。
単色	領域を単色で塗りつぶします。
グラデーション	指定した2色で、領域にグラデーションをかけます。
テクスチャ	画像ファイルを指定して、領域内に配置します。
パターン	領域内にハッチングを描画します。
シンボル	「ハッチ編集」メニューの「シンボル登録」で登録したシンボルを領域内にピッチ配置します。
ライン	線分を組み合わせ任意にハッチングパターンを設定し、領域内に描画します。

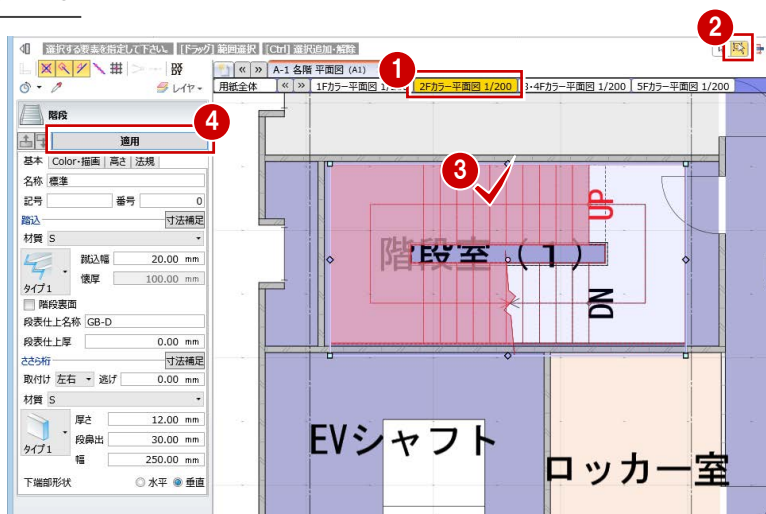
※ 詳しくは、ヘルプを参照してください。

1-2 生成した図面の編集

オブジェクトのプロパティを変更するには

- 1 編集する図面をアクティブにします。
- 2 「グループ選択」をONにします。
- 3 オブジェクトをクリックすると、プロパティが表示されます。
- 4 プロパティを変更後に「適用」をクリックすると、変更が図面およびモデルデータに反映されます。

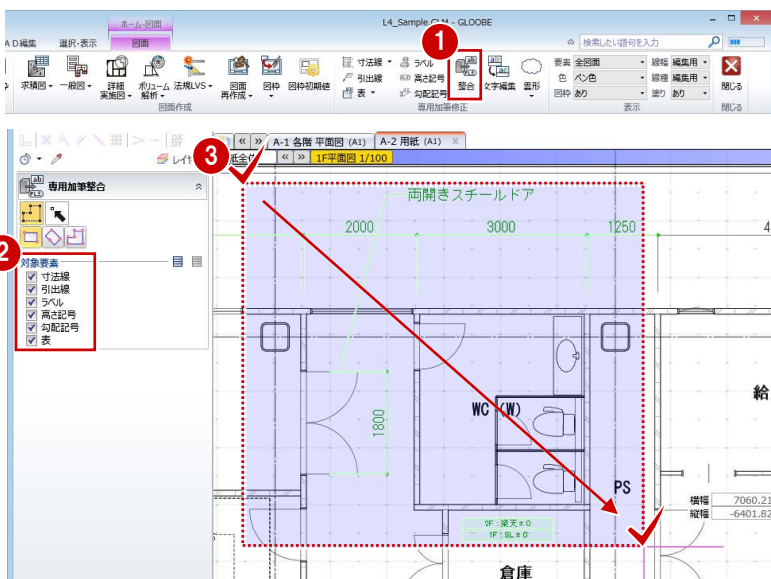
プロパティの変更はモデルデータに連動しますが、オブジェクトの編集（移動、削除など）は図面のみでモデルデータには連動しません。



オブジェクトの編集を専用加筆に反映するには

オブジェクトのプロパティを変更した場合に、配置済みの引出線や面積表などに変更内容を反映させるには、次のように操作します。

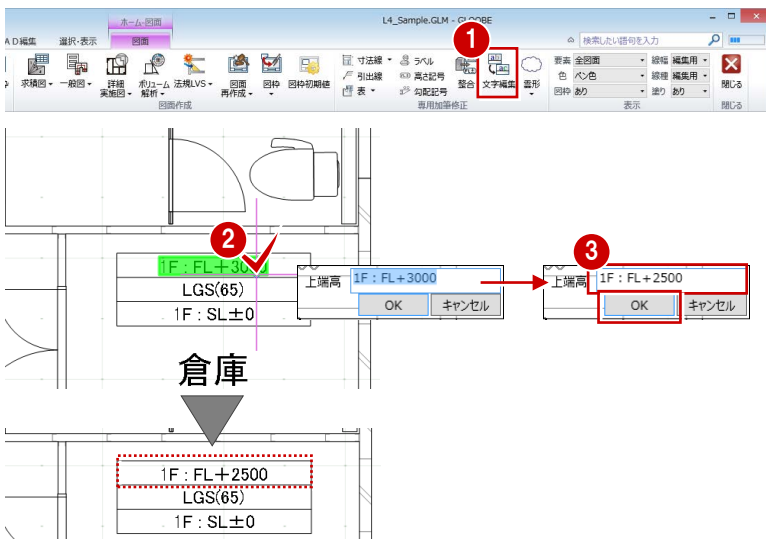
- 1 「整合」をクリックします。
- 2 整合の対象とする要素をONにします。
- 3 整合したい専用加筆がすべて含まれるように範囲を指定します。
専用加筆の内容が更新されます。



専用加筆の文字列を編集するには

プロパティ引出線・ラベルなどの項目文字や、面積表・凡例表などのセルの文字列を編集したい場合は、次のように操作します。

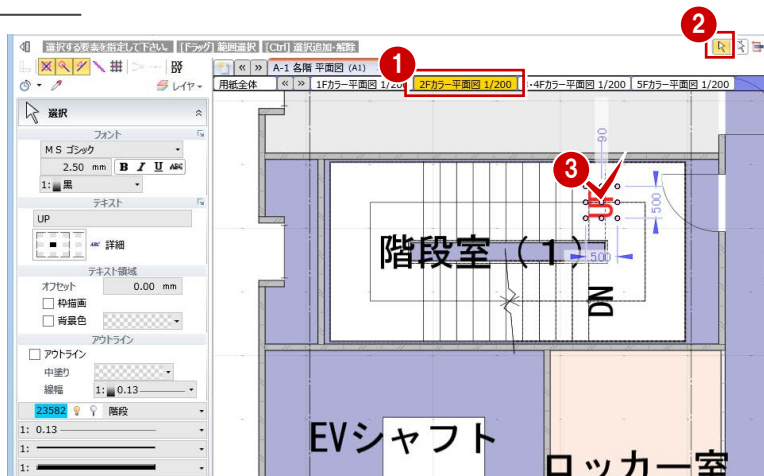
- 1 「文字編集」をクリックします。
- 2 専用加筆の文字列をクリックします。
- 3 文字列を編集して、「OK」をクリックします。
文字列が書き変わります。



オブジェクトの要素を個別に編集するには

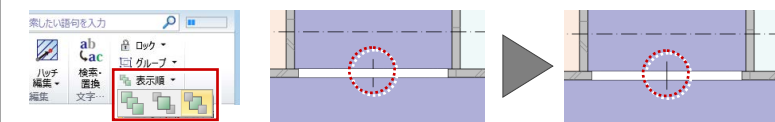
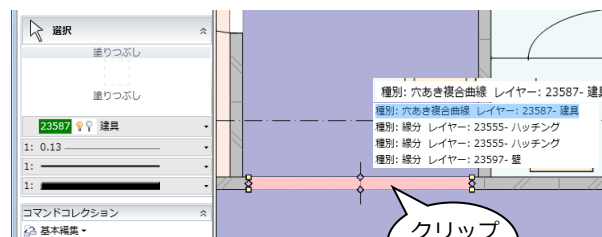
- ① 編集する図面をアクティブにします。
- ② 「選択」を ON にします。
- ③ オブジェクトをクリックすると、選んだ要素のレイヤやペンなどが表示されます。
- ④ ペンなどの変更や移動などの編集を行います。

要素の編集はモデルデータに連動しません。
また、ロックをせずに「図面再作成」を行うと要素の編集は初期化されます (⇒ P.13 参照)。



クリップ領域について

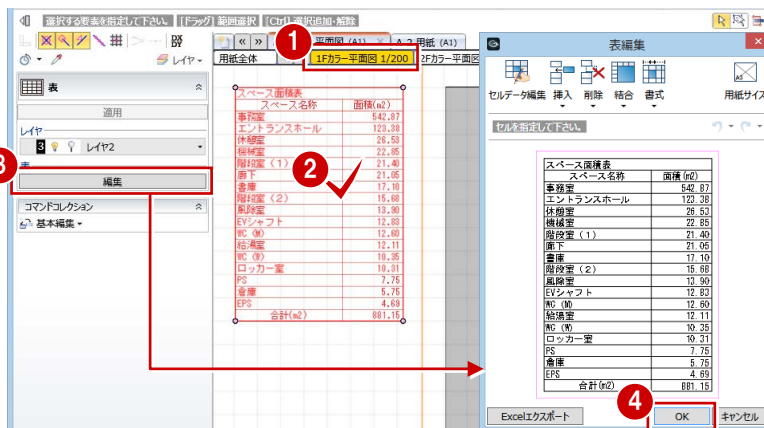
建具やカタログ部品などのオブジェクトは、線分の他に「クリップ領域」という塗りつぶし領域 (種別: 穴あき複合曲線) を持っています。建具による壁の開口や、カタログ部品による床仕上のハッチングくり抜きなどは、このクリップ領域によって表現しています。オブジェクトの要素編集により、クリップ領域の表示順が上になった場合は、「CAD 編集」タブの「表示順」で調整してください。



表を編集するには

配置した面積表や凡例表などの内容を変更したい場合は、次のように操作します。

- ① 表を配置した図面をアクティブにします。
- ② 表を選択します。
- ③ 「編集」をクリックします。
「表編集」ダイアログが開きます。
- ④ 内容を変更して、「OK」をクリックします。



セルデータ編集		セル内のデータを編集します。「表編集」ダイアログを開いたときは、このコマンドを実行中の状態です。
挿入	行挿入	選択したセルの上に新しく行を追加します。
	列挿入	選択したセルの左側に新しく列を追加します。
削除	行削除	選択したセルの行を削除します。
	列削除	選択したセルの列を削除します。
結合	セルの結合	選択したセルを結合して 1 つのセルにします。
	セル結合の解除	選択したセルの結合を解除します。
書式	行の高さ	選択したセルの行の高さを変更します。
	列の幅	選択したセルの列の幅を変更します。
	書式設定	セル内のテキストの配置位置やフォント、セルの罫線や背景色などを変更します。
Excel エクスポート	表の内容を Excel ファイルに出力します。Microsoft Excel で編集することができます。	

2 編集後の図面の再作成

ここでは、図面を作成後にモデルデータの変更があった場合の操作について解説します。

2-1 図面整合チェック

モデルの変更に伴う図面の整合を確認するには

- 「ホーム」タブをクリックして、「図面作成」メニューから「図面整合チェック」を選びます。
- 「不整合図面確認画面を開きます」がONであることを確認して、「OK」をクリックします。
「図面整合チェック」画面が開き、変更が必要な図面に赤枠が表示されます。
- 「図面更新」をクリックします。
- 「図面再作成」ダイアログで処理を選択して、「OK」をクリックします。
 - 「再作成を実行する」を選択した場合
赤枠がついた図面の再作成が行われ、終了すると「図面作成完了」と表示されます。
 - 「不整合のマーキングをし、再作成は個別に行う」を選択した場合
赤枠がついた図面がマーキングされ、「不整合マーキング完了」と表示されます。
- 「ファイル更新」をクリックします。
- 「上書保存」をクリックしてデータを更新します。

図面整合チェックは、図面を作成したときに配置されていたオブジェクトについてのチェックであり、図面作成後に新規に追加したオブジェクトはチェックできません。また、汎用データや GLOBE2012 以前で作成した図面もチェック対象外です。

「再作成を実行する」を選択した場合は、図面に加筆していた内容はすべてクリアされます。

手順②で「不整合図面確認画面を開きます」以外を選択した場合は、確認画面を開かずに、手順④～⑥が実行された状態になります。

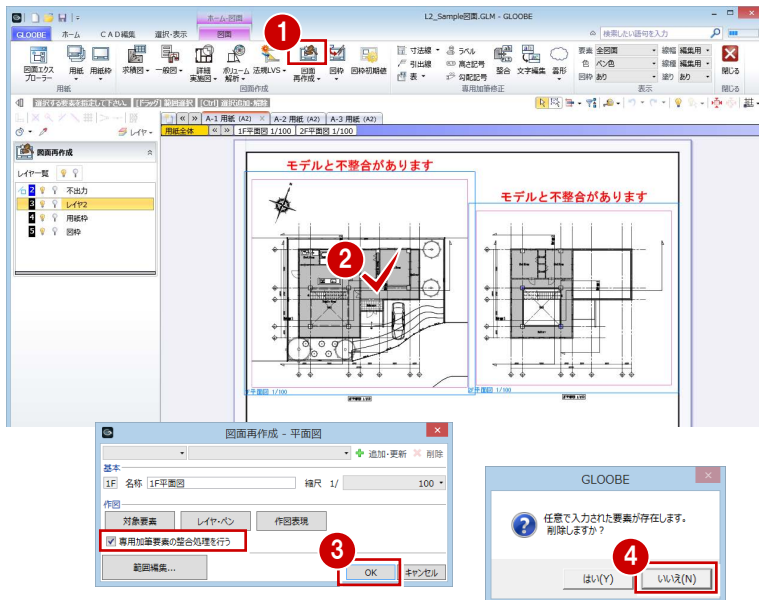
GLOOBE シートの場合

モデルをダイレクトに参照しているシートファイルの場合は、GLOOBE シートの「モデル分離」メニューの「図面整合チェック」コマンドにて整合チェックおよび図面更新を行えます。

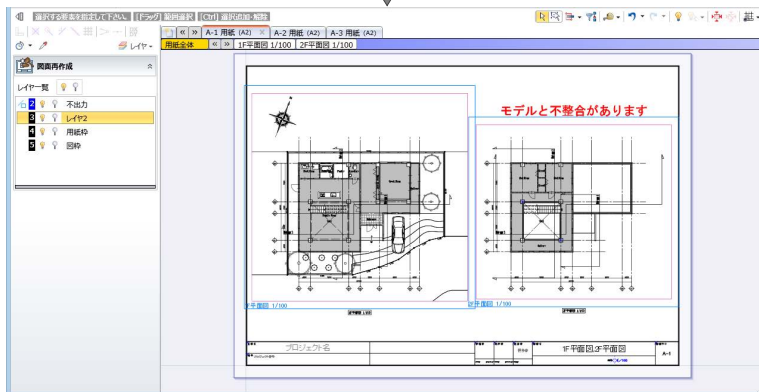
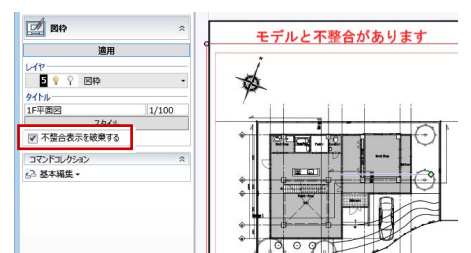


マーキングされた図面を再作成するには

- ① 図面を開き、「図面再作成」をクリックします。
- ② マーキングされた図面をクリックします。
- ③ 「専用加筆要素の整合処理を行う」が ON であることを確認して、「OK」をクリックします。
- ④ 加筆がある場合は削除の確認画面が表示されるので、「いいえ」をクリックします。図面の再作成が行われ、寸法線・引出線・ラベル・高さ記号・勾配記号・表の内容も更新されます。



マーキングされた図面のプロパティには「不整合表示を破棄する」の設定があります。これを ON にして「適用」をクリックすることで、「モデルと不整合があります」のマーキングを消すことができます。



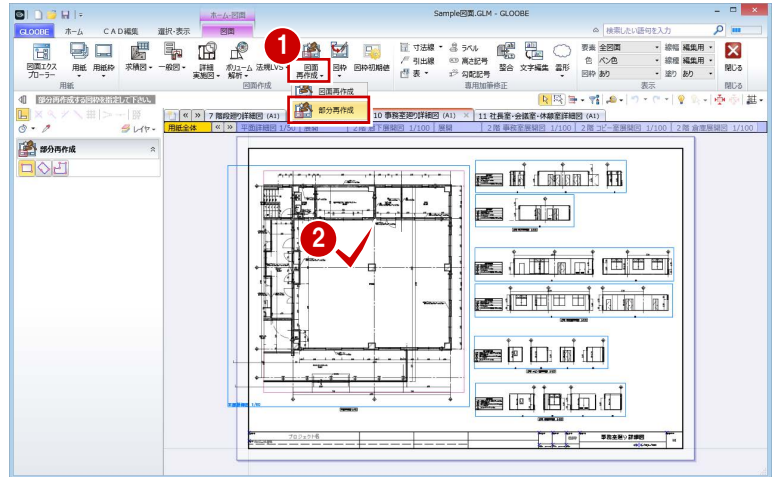
2-2 部分的な再作成

モデルの設計変更があり変更箇所がわかっている場合に、図面で加筆編集した部分を残して、設計変更箇所を部分的に再作成するには、次のように操作します。

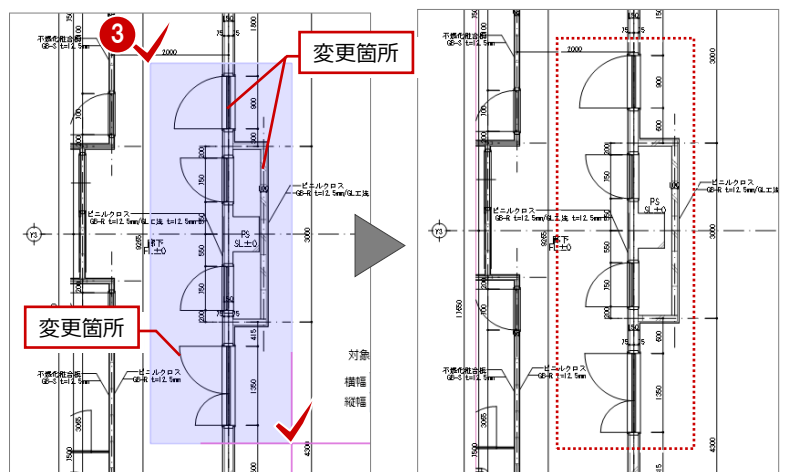
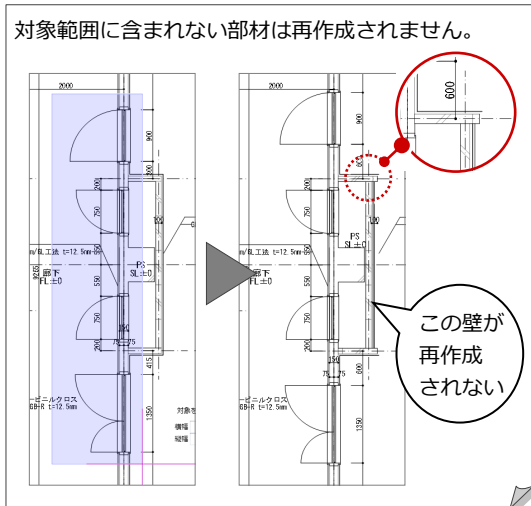
モデル変更箇所を部分的に再作成するには

① 「図面再作成」メニューから「部分再作成」を選びます。

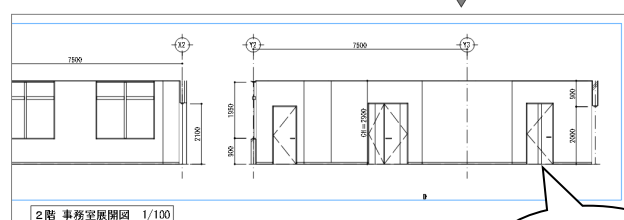
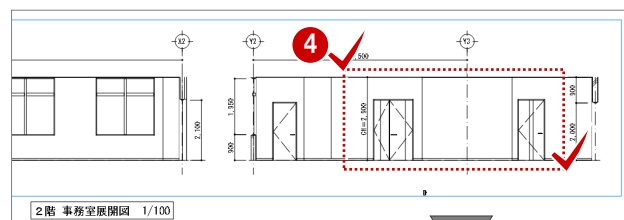
② 部分再作成する図枠を指定します。



③ 変更箇所（ここでは、建具 2 ケ所、PS の壁）をすべて囲む、または交差するように範囲を指定します。
建具と壁の位置が変更されました。

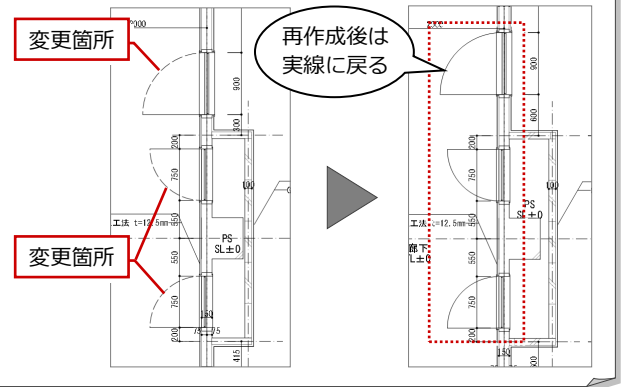


④ 同様にして、展開図など修正箇所が含まれる図面に対して再作成を行います。



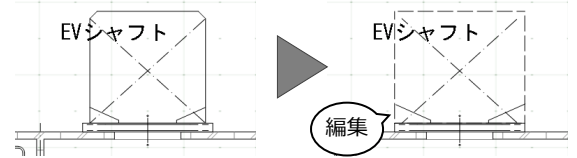
オブジェクトの要素を編集している場合

オブジェクトの線種など、作図要素を編集している場合、部分再作成後は元の状態（この場合は実線）に戻ってしまうので、再度編集が必要になります。



2-3 編集箇所のロック

図面でオブジェクトの線種などを部分的に編集しても、設計変更などで図面再作成を行うと編集がクリアされてしまいます。これを残しておきたい場合は、次のようにロックを設定してから図面を再作成します。



保護したい部分をロックするには

① 編集したい図面をアクティブにします。

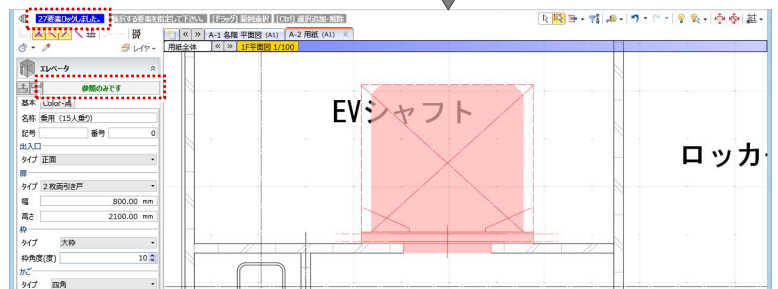
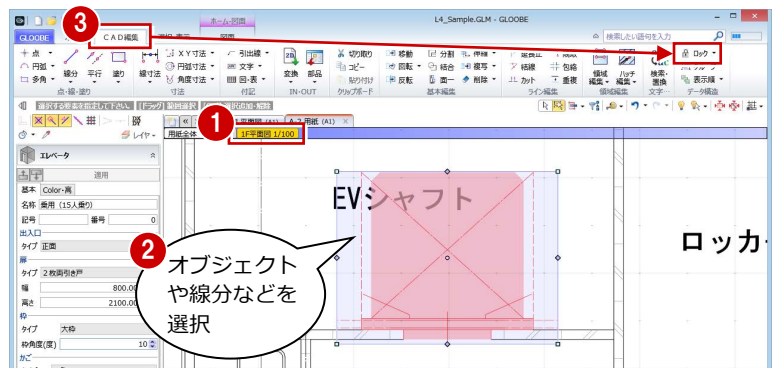
② Ctrl キーを押しながらオブジェクトと線分などを選択します。

オブジェクトは、「グループ選択」をONにして選択します。

③ 「CAD 編集」タブをクリックして、「ロック設定」を選びます。

終了すると、ツールバーにメッセージが表示されます。

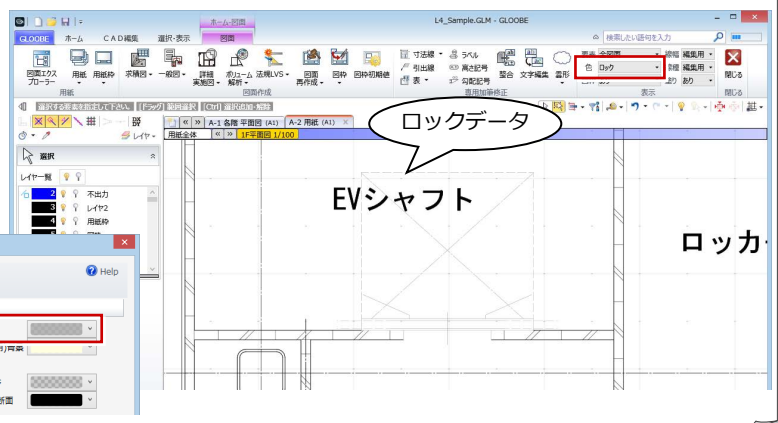
ロックを設定すると、オブジェクトのプロパティに「参照のみです」と表示されてプロパティの変更ができなくなります。ロックを解除するには、「ロック」メニューの「ロック解除」を使用します。



ロックデータの色分け

ロックされているデータを判別したい場合は、「表示」グループの「色」を「ロック」に変更すると、ロックデータが色分け表示されます。

ロックデータの色は、「GLOBEのオプション (CAD 環境)」にて設定できます。

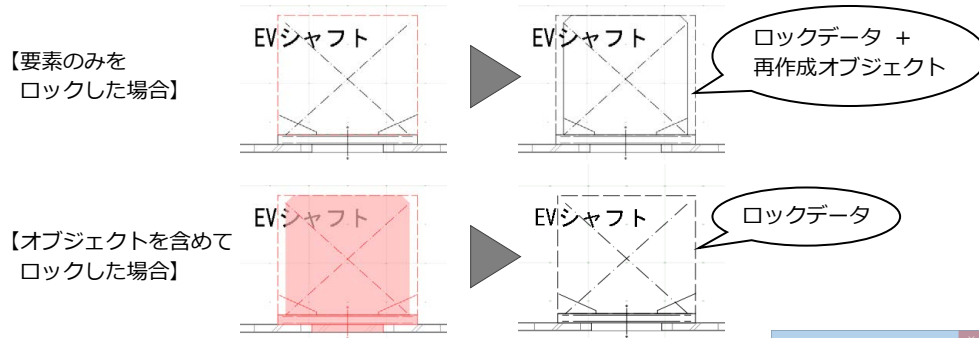


ロックデータを含む図面を再作成するには

- 1 「図面」タブをクリックして、「図面再作成」を実行します (⇒ 操作の詳細は P.10 参照)。
- 2 確認画面で「いいえ」をクリックします。



ロックしたデータによって、図面再作成後のオブジェクトの描画は次のように異なります。



なお、確認画面で「はい」をクリックした場合は、再作成オブジェクトになりロックが解除されます。



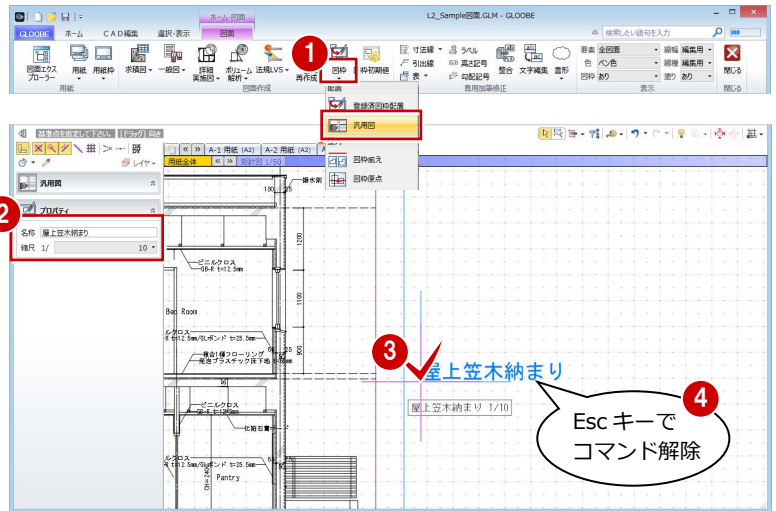
3 部分詳細・納まり図などの配置

ここでは、DWG データを読み込んで、縮尺の異なる部分図を配置する操作を解説します。

部分図を配置するには

汎用図を配置する

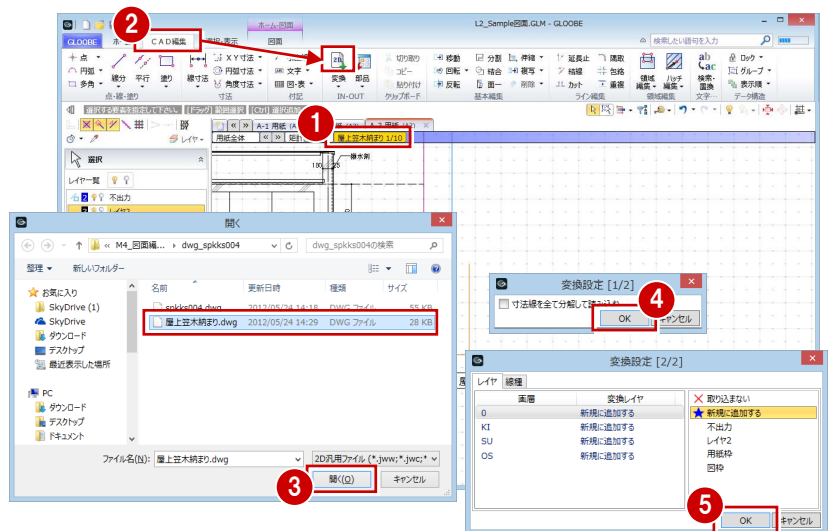
- 1 「図枠」メニューから「汎用図」を選びます。
 - 2 汎用図の名称と縮尺を入力します。
- 入力した名称が図枠のタイトルに記載されます。
- 3 汎用図の基準位置をクリックします。
 - 4 汎用図の入力が継続しているので、Esc キーで解除します。



2D 汎用データを読み込む

- 1 配置した汎用図をアクティブにします。
- 2 「CAD 編集」タブをクリックして、「2D 汎用読み込み」を選びます。
- 3 2D 汎用ファイルを選択して、「開く」をクリックします。
- 4 「変換設定 [1/2]」ダイアログで、寸法線を分解するかどうかを設定して、「OK」をクリックします。

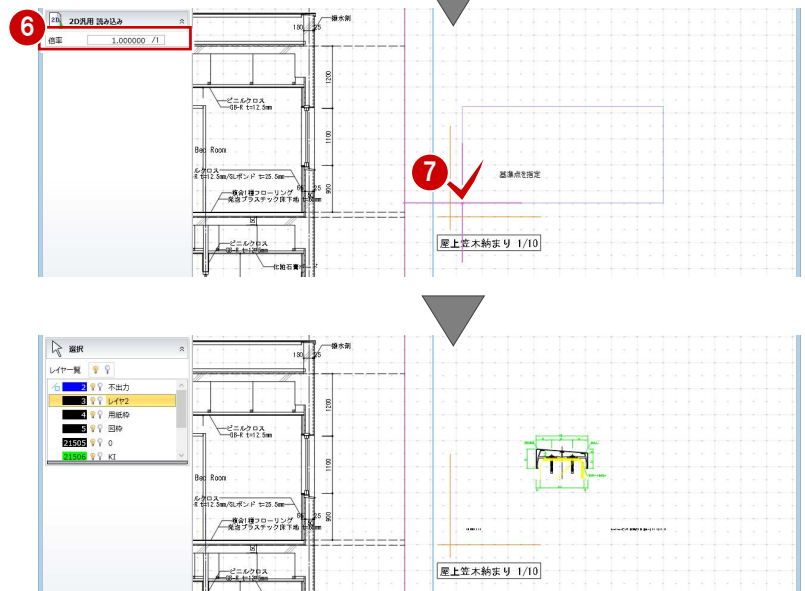
DWG/DXF データを指定した場合に表示され、OFF のときは寸法線要素として読み込みます。ON のときや、Jw・SXF データを指定した場合は、文字列と線分の要素として読み込みます。



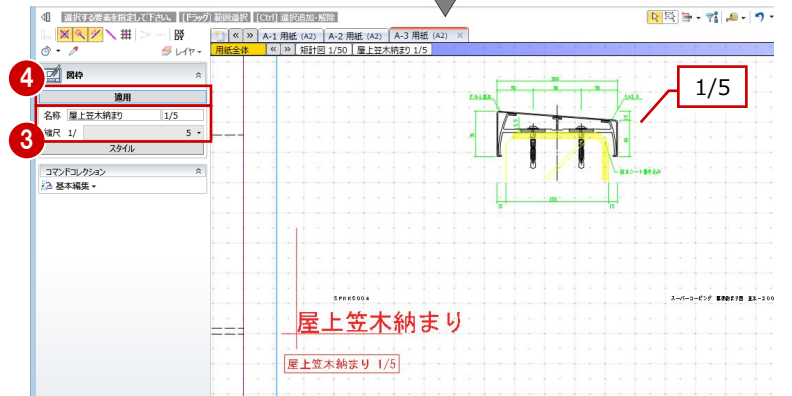
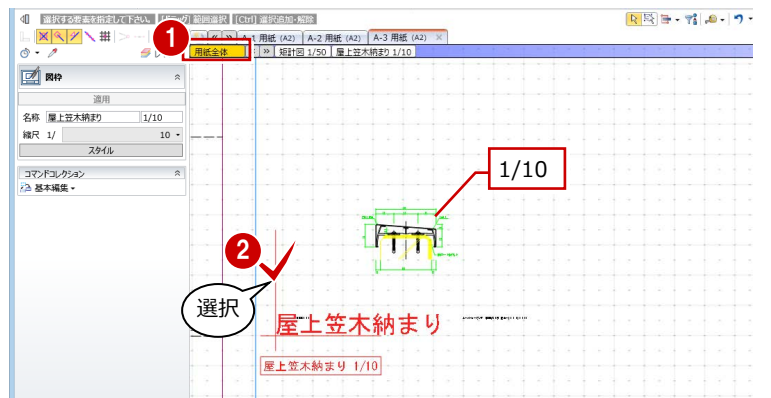
- 5 「変換設定 [2/2]」ダイアログで、読み込むデータのレイヤごとに取り込み先のレイヤを指定して、「OK」をクリックします。

「取り込まない」：データを取り込みません。
 「新規に追加する」：取り込み先のレイヤが一覧にない場合に選択します。
 「不出力」：出力しないデータとして設定します。上記以外は、図面に設定されているレイヤが表示され、取り込み先のレイヤに設定できます。

- 6 汎用データの内容を貼り付ける倍率を設定します。
- 7 配置位置をクリックします。



汎用図は図枠に縮尺を持っています。
「用紙全体」をアクティブにして汎用図の図枠を選択すると、汎用図のタイトルや縮尺を変更できます。



4 図面構成の調整

ここでは、図面の用紙間移動や位置合わせ、他ファイルからの用紙合成、用紙の名称変更、用紙グループの作成、並び替えなどの操作を解説します。

4-1 図面の移動

図面を用紙間で移動するには

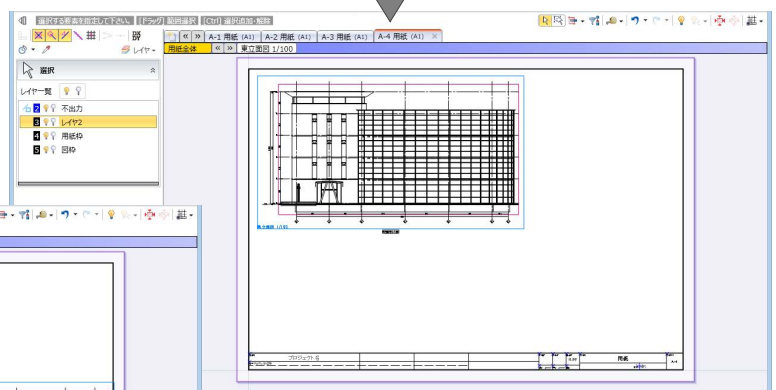
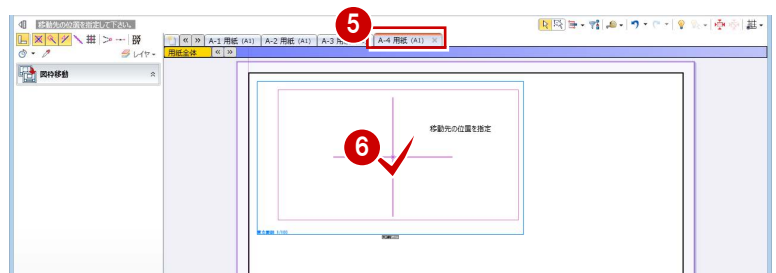
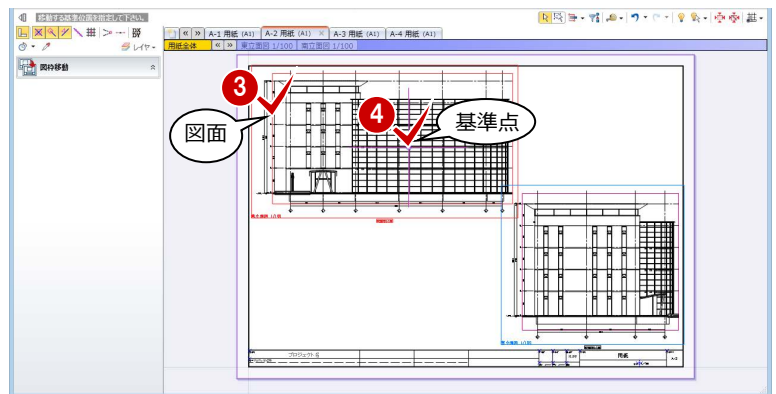
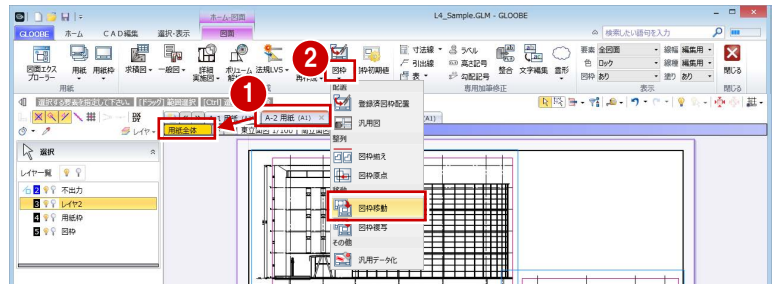
- 1 移動したい図面の用紙タブを選択して、「用紙全体」をアクティブにします。
- 2 「図枠」メニューから「図枠移動」を選びます。
- 3 移動したい図面をクリックします。

複数の図面を移動したい場合は、Ctrl キーを押しながら複数の図面を選択した後に、「図枠」メニューの「図枠移動」を選びます。

- 4 移動の基準とする位置をクリックします。

- 5 移動先の図面の用紙タブを選択します。
- 6 図面の配置位置をクリックします。
図面が移動します。

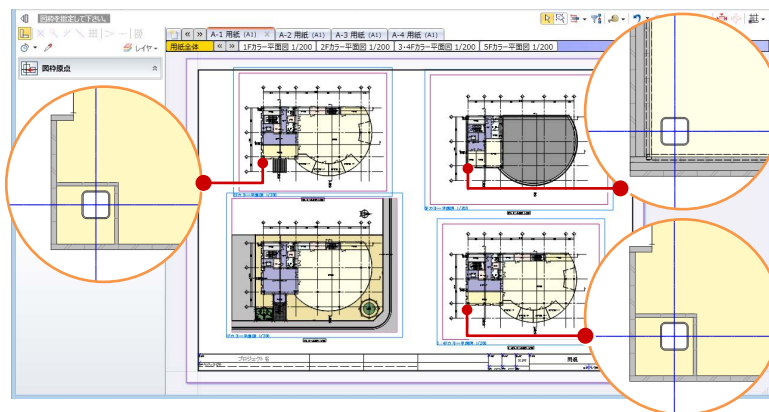
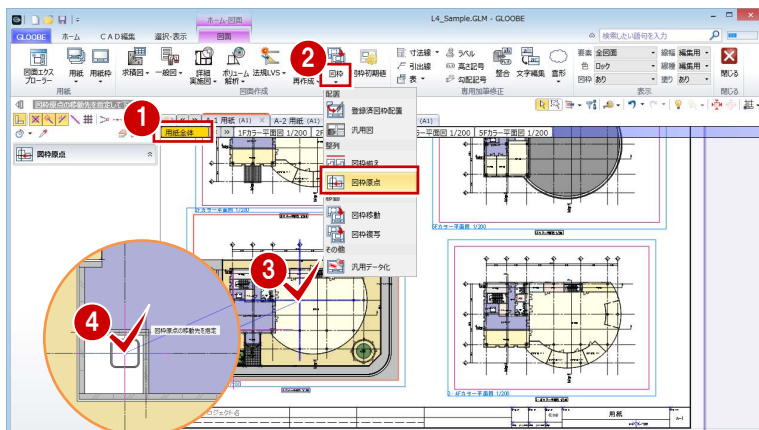
元の用紙に図面を残したまま他の用紙にコピーしたい場合は、「図枠」メニューの「図枠複写」を使用します。



図面の位置を合わせるには

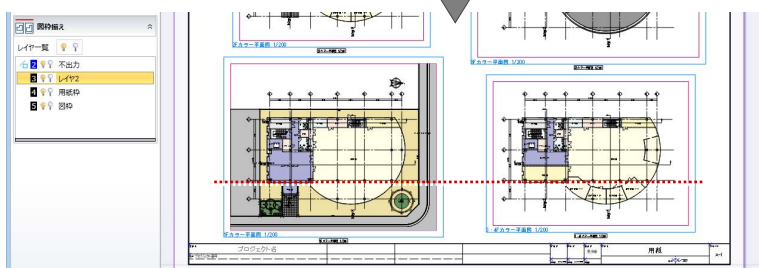
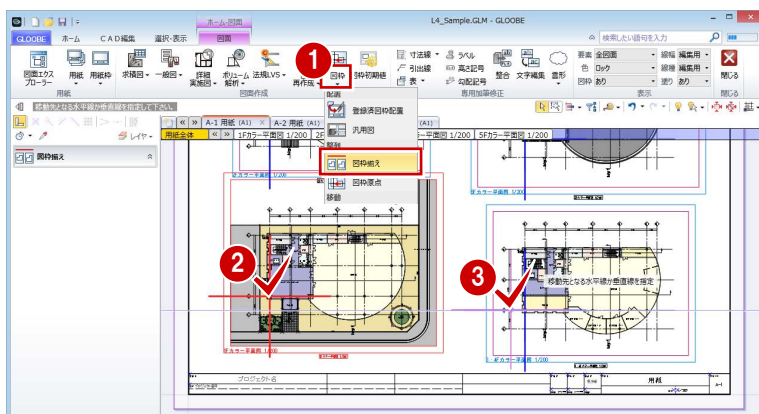
図面の配置基準点を移動する

- 1 「用紙全体」をアクティブにします。
- 2 「図枠」メニューから「図枠原点」を選びます。
- 3 原点位置を変更したい図面をクリックします。
現在の原点位置が十字で表示されます。
- 4 変更後の原点位置をクリックします。
ここでは、通り芯の交点をクリックします。
- 5 同様にして、他の図面の原点位置も変更します。

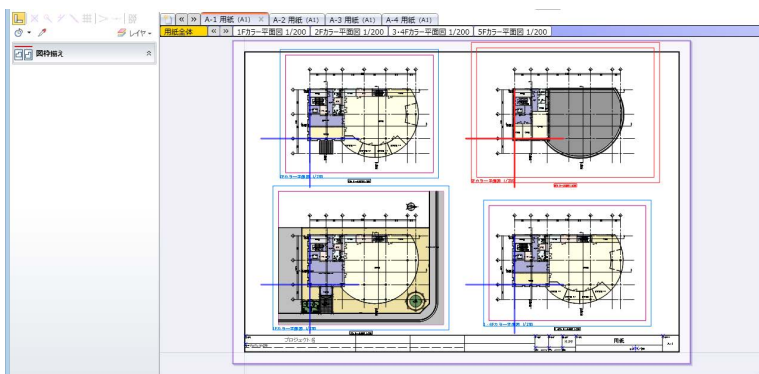


図枠原点を基準に図面を揃える

- 1 「図枠」メニューから「図枠揃え」を選びます。
- 2 移動する図面をクリックします。
- 3 基準とする図面の原点位置から延びる水平線または垂直線をクリックします。
先にクリックした図面が移動して、水平方向または垂直方向の位置が揃います。



- 4 同様にして、他の図面も位置を合わせます。

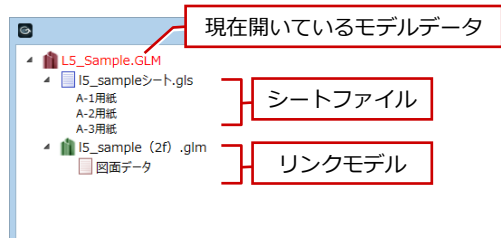


4-2 用紙の編集

他のファイルから用紙を合成するには

■ リンクファイルが存在する場合

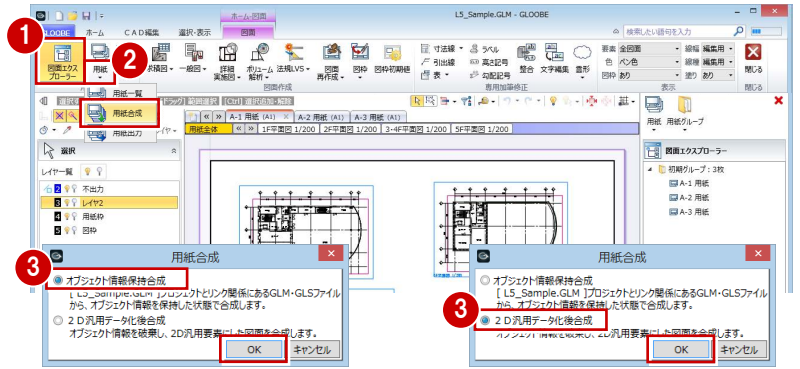
例えば、右図のようなリンク関係にある場合、リンクするモデル・シートファイルからレイアウト済みの用紙をコピーできます。



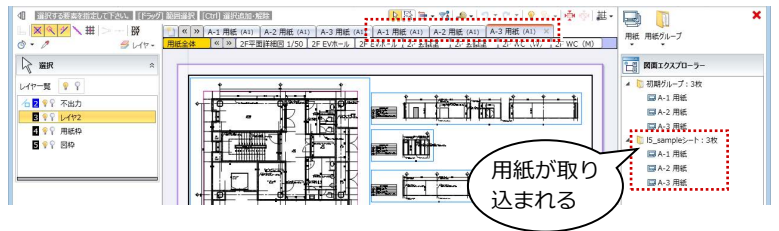
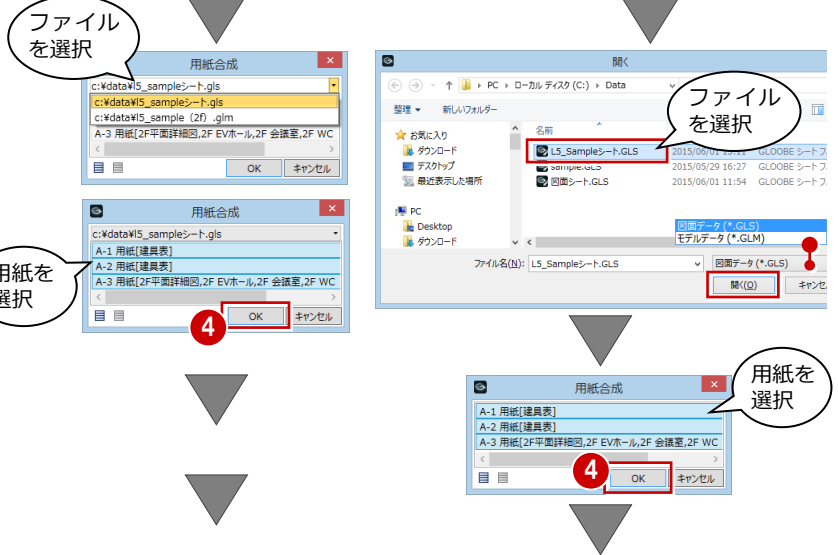
- ① 「図面エクスプローラー」をクリックします。
- ② 「用紙」メニューから「用紙合成」を選びます。
- ③ 合成方法を選択して、「OK」をクリックします。

「オブジェクト情報保持合成」では、リンク関係にあるモデル・シートファイルの用紙を、オブジェクト情報を保持した状態で合成します。「2D 汎用データ化後合成」では、任意のモデル・シートファイルの用紙を汎用データとして合成します。

※ リンク関係がないデータを開いている場合、この設定は表示されません。2D 汎用データ化後、合成されます（下記参照）。



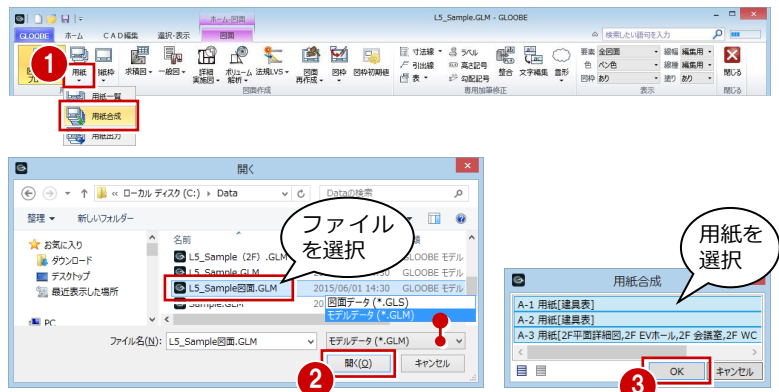
- ④ ファイルと取り込む用紙を指定して、「OK」をクリックします。指定した用紙が複写されます。



■ リンクファイルが存在しない場合

上記の「2D 汎用データ化後合成」を選択したときと同じ操作になります。

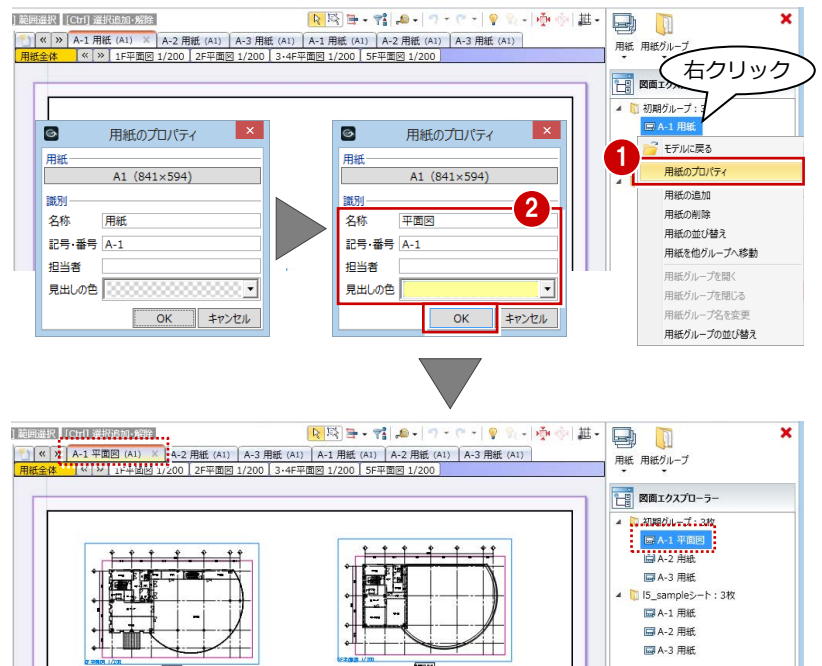
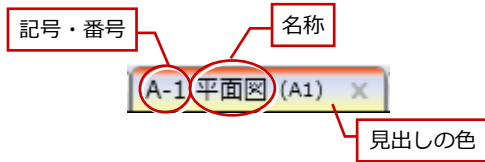
- ① 「用紙」メニューから「用紙合成」を選びます。
- ② モデルまたはシートファイルを選択して、「開く」をクリックします。
- ③ 取り込む用紙を指定して、「OK」をクリックします。指定した用紙が複写されます。



用紙の名称・番号を整えるには

図面エクスプローラーから変更する

- 1 図面エクスプローラーで用紙を選択し、右クリックして「用紙のプロパティ」を選びます。
- 2 名称や記号・番号、見出しの色などを変更して、「OK」をクリックします。
図面エクスプローラーや用紙タブの表示が変わります。

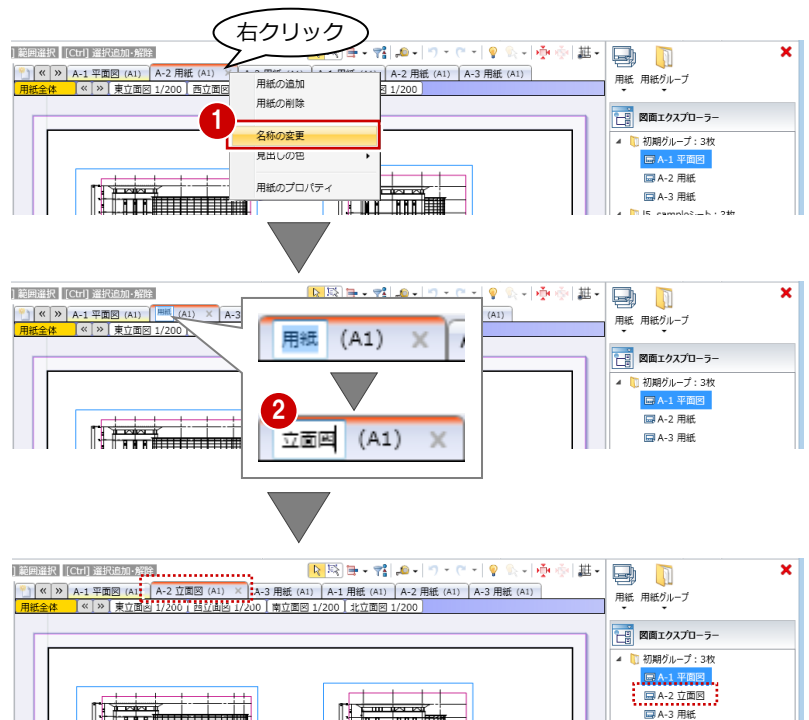


用紙タブから変更する

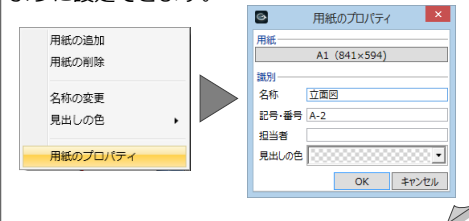
- 1 用紙タブ上で右クリックして「名称の変更」を選びます。

用紙タブ上をダブルクリックしても、名称変更の状態になります。

- 2 名称を変更して、Enter キーを押します。
図面エクスプローラーや用紙タブの名称が変わります。



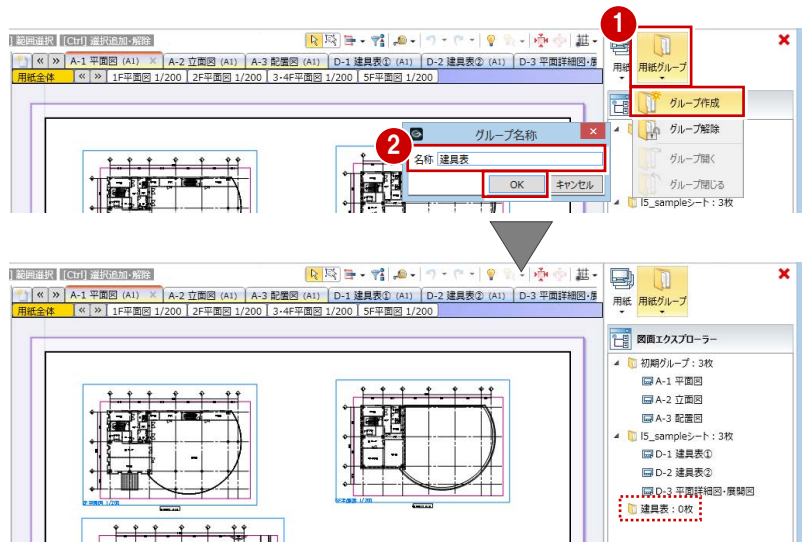
用紙タブ上で右クリックして「用紙のプロパティ」を選んでも、図面エクスプローラーと同じように設定できます。



用紙グループを作成するには

用紙グループを追加する

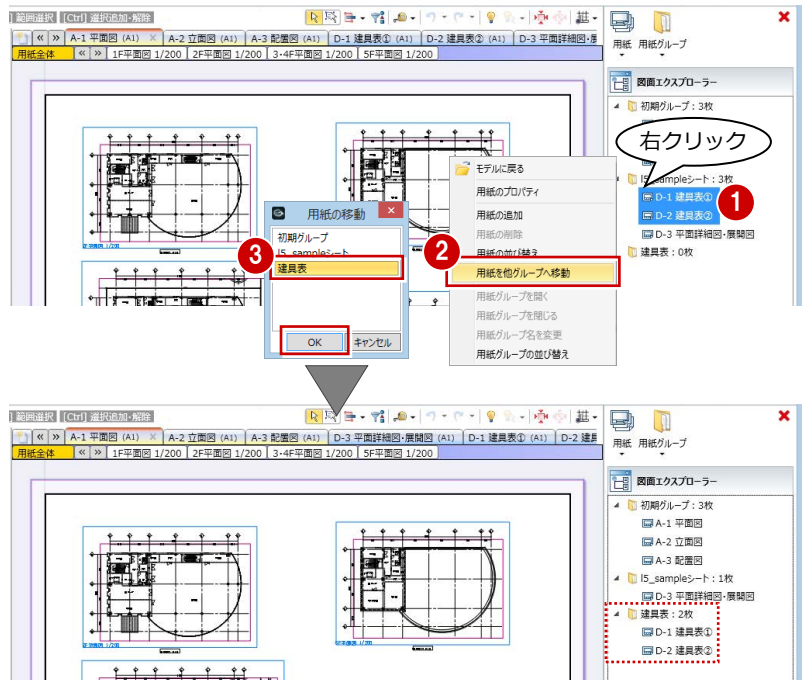
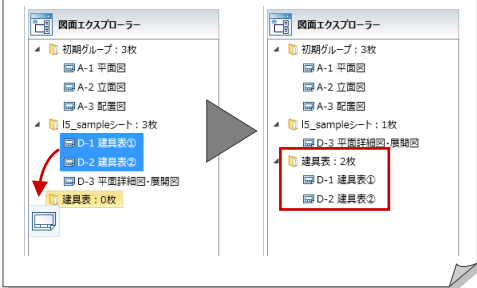
- ① 「用紙グループ」メニューから「グループ作成」を選びます。
- ② 「名称」を「建具表」に変更して、「OK」をクリックします。



図面を他のグループに移動する

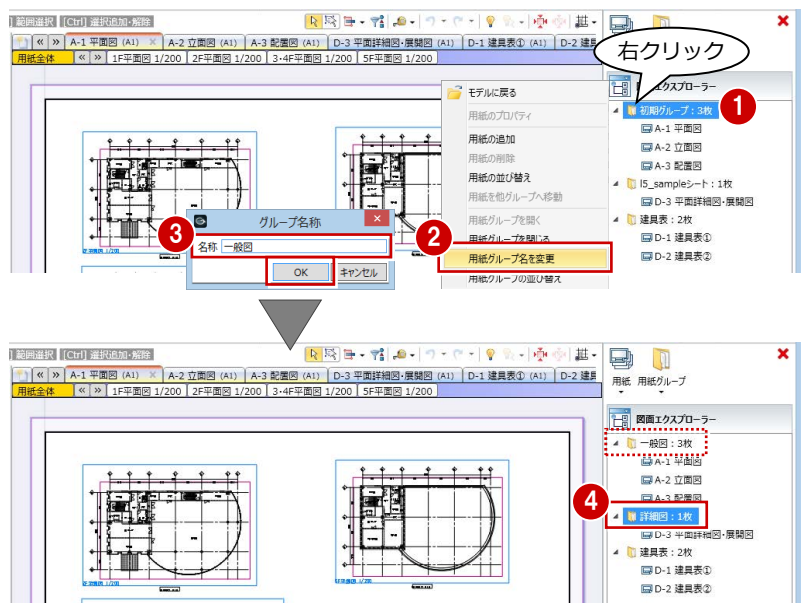
- ①② 図面エクスプローラーで移動する図面を選択し、右クリックして「用紙を他グループへ移動」を選びます。
- ③ 「建具表」を選択して、「OK」をクリックします。

図面エクスプローラーで移動する用紙をドラッグし、移動先のグループにドロップしても、用紙を移動することができます。



グループ名称を変更する

- ①② 図面エクスプローラーで変更する用紙グループを選択し、右クリックして「用紙グループ名を変更」を選びます。
- ③ 「名称」を「一般図」に変更して、「OK」をクリックします。

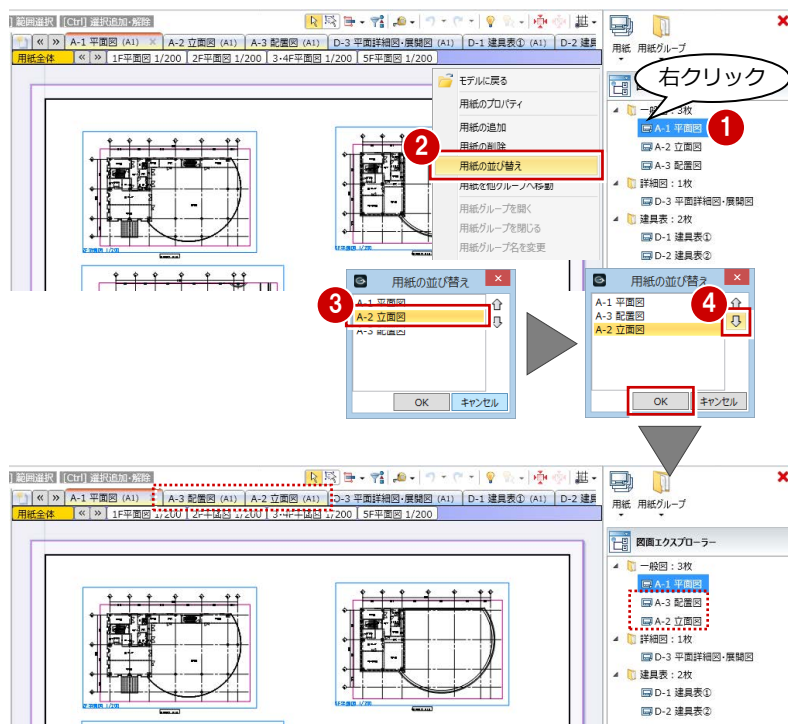


- ④ 同様にして、「I5_sample シート」の「名称」を「詳細図」に変更します。

用紙の順番を整えるには

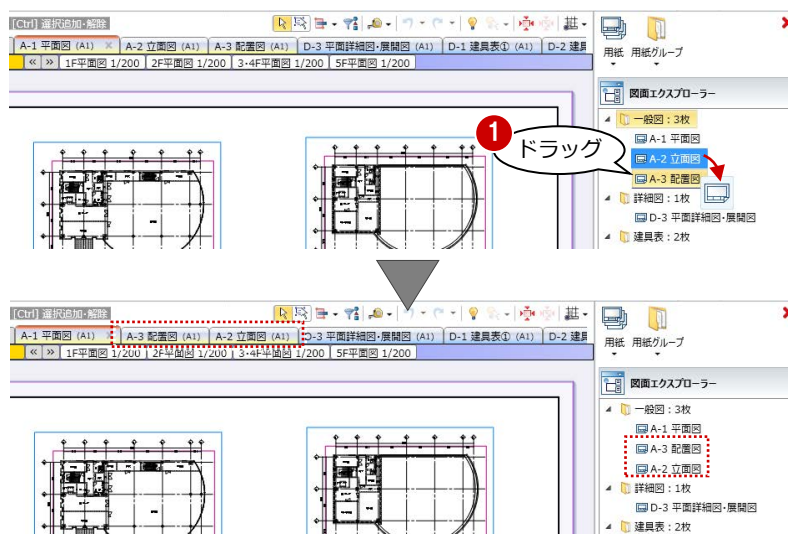
図面エクスプローラーから変更する①

- ①② 図面エクスプローラーで右クリックして「用紙の並び替え」を選びます。
- ③ 並び替えたい用紙を選択します。
- ④ 「↓」または「↑」をクリックして順番を入れ替え、「OK」をクリックします。
用紙の順番が変わります。



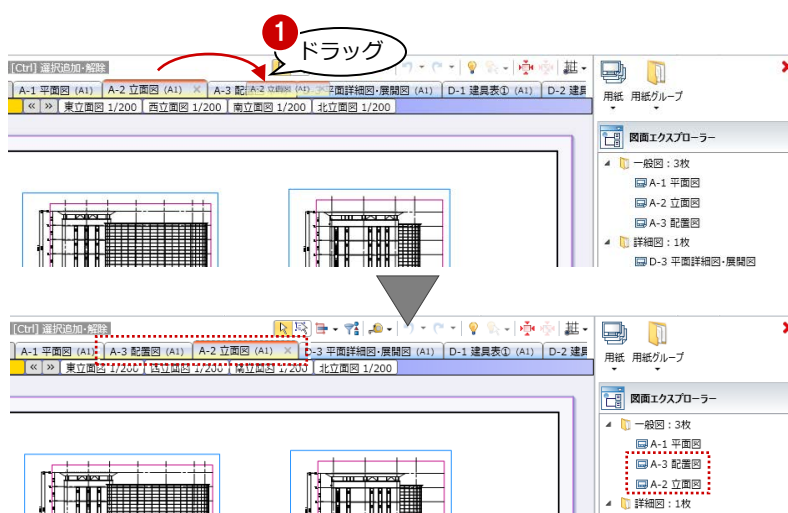
図面エクスプローラーから変更する②

- ① 図面エクスプローラーで用紙をドラッグし、並び替えたい位置にドロップします。
用紙の順番が変わります。



用紙タブから変更する

- ① 用紙タブをドラッグし、並び替えたい位置にドロップします。
用紙の順番が変わります。

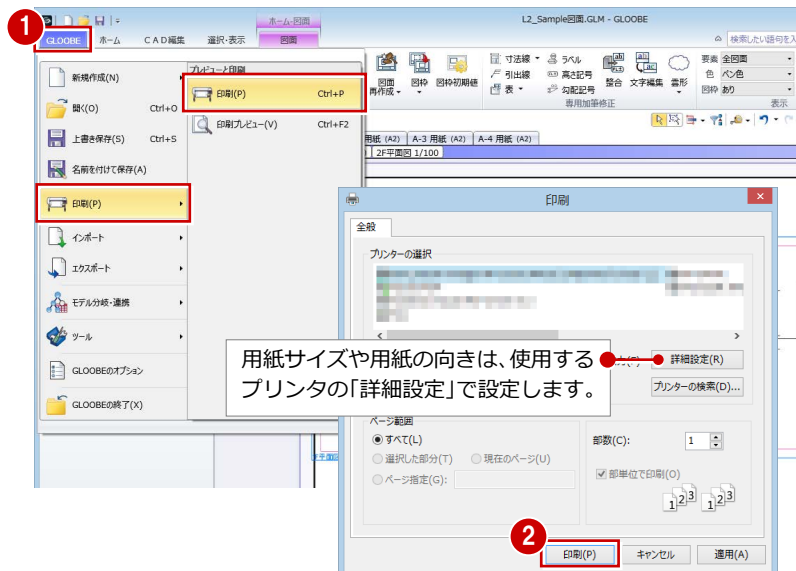


5 印刷

ここでは、通常の印刷のほか、縮小印刷や連続印刷について解説します。

用紙を印刷するには

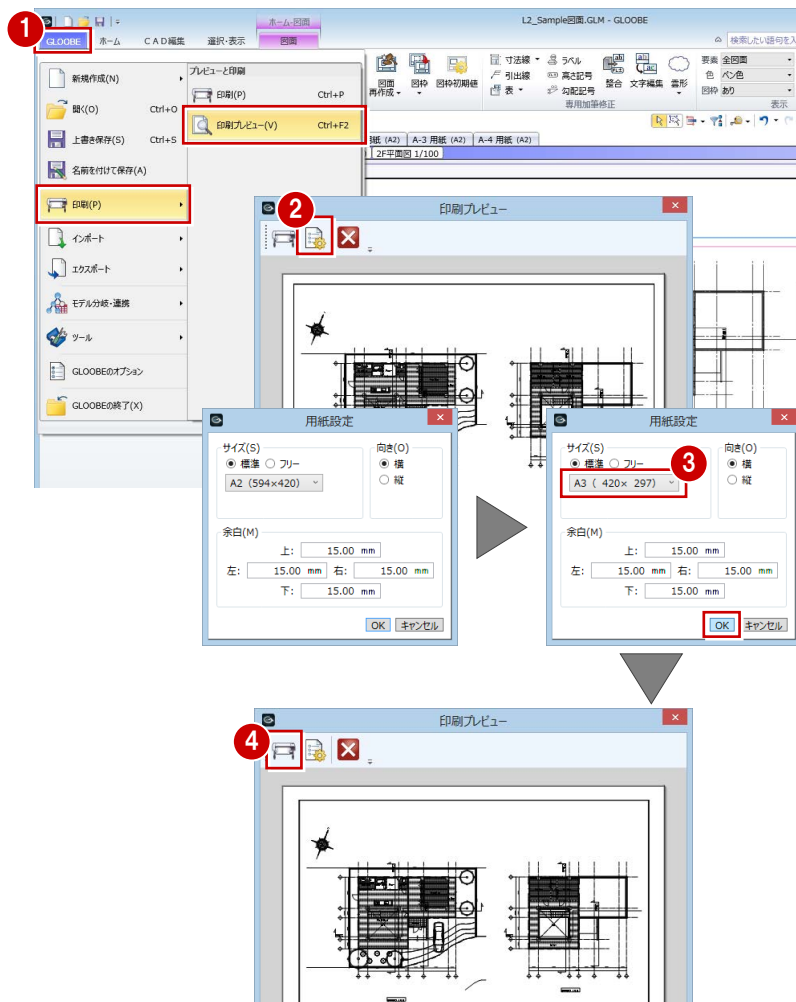
- 1 GLOOBE ボタンをクリックして、「印刷」メニューから「印刷」を選びます。
- 2 使用するプリンタを選んで、「印刷」をクリックします。
開いている用紙が印刷されます。



用紙の大きさに合わせて縮小印刷するには

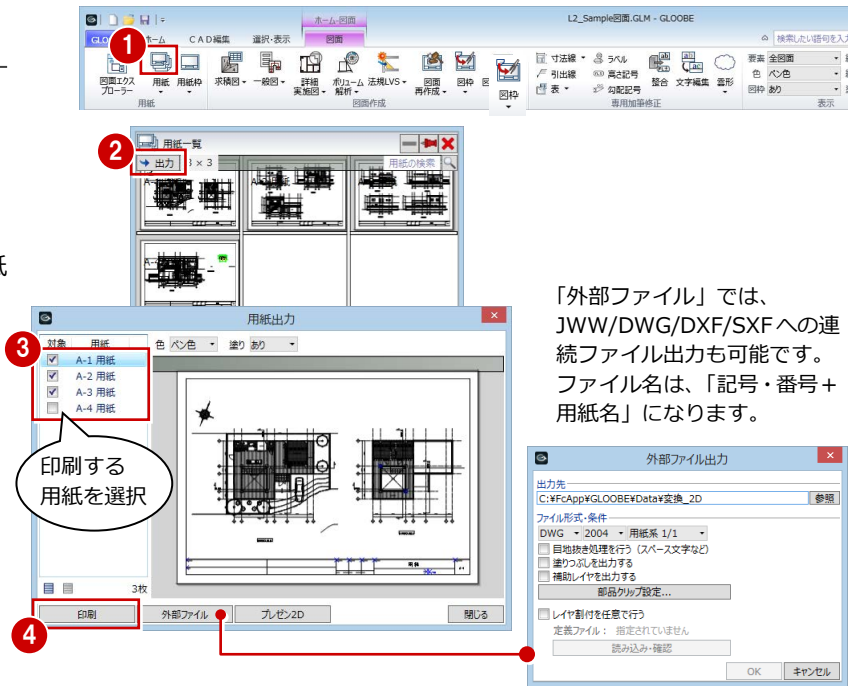
プリンタ側に拡大縮小機能がない場合に、拡大または縮小印刷したいときは、次のように操作します。

- 1 GLOOBE ボタンをクリックして、「印刷」メニューから「印刷プレビュー」を選びます。
- 2 「用紙設定」をクリックします。
- 3 用紙のサイズを変更して、「OK」をクリックします。
- 4 「ドキュメントの印刷」をクリックします。
指定したサイズに自動でフィットして印刷されます。



連続印刷するには

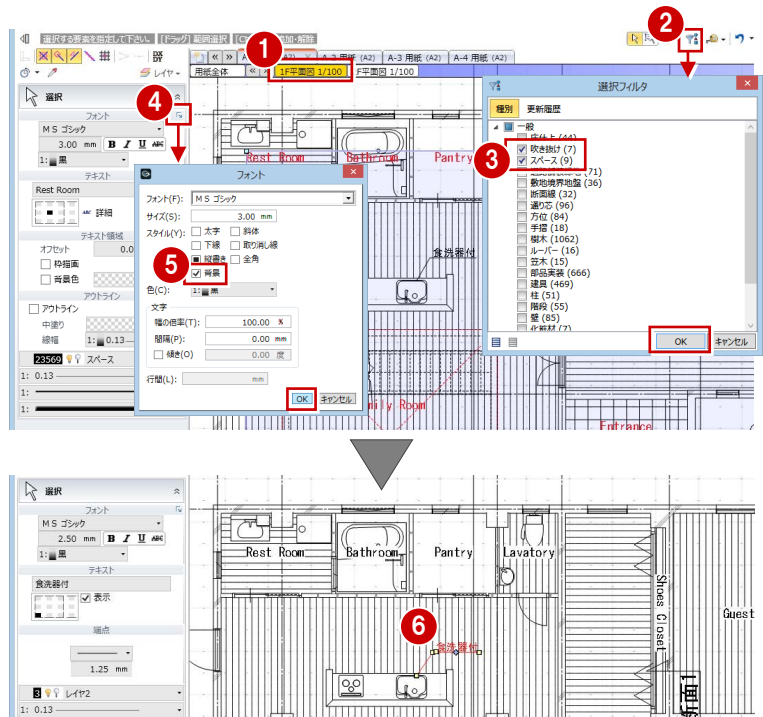
- ① 「用紙一覧」をクリックします。
- ② 「用紙一覧」ダイアログで、「出力」をクリックします。
- ③ 「用紙出力」ダイアログで、印刷したい用紙にチェックを付けます。
- ④ 「印刷」をクリックします。
指定した用紙が連続印刷されます。



補足 印刷・出力時の目地抜き処理について

ハッチング上にあるカタログ部品は、カタログ部品が持つクリップ領域によって目地がくり抜かれています (⇒ P.8 参照)。文字にかかるハッチングをくり抜きたい場合は、文字のプロパティで「背景」を ON にします。

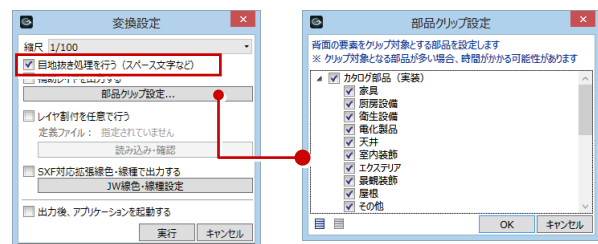
- ① 編集したい図面をアクティブにします。
- ② 「フィルタ」をクリックします。
- ③ 「スペース」「吹き抜け」のみを ON にして、「OK」をクリックします。
- ④ 「フォント」の横の矢印をクリックします。
- ⑤ 「背景」を ON にして、「OK」をクリックします。
「GLOOBE のオプション (CAD 環境)」で設定している「背景」の色で文字の背景が塗られます。
- ⑥ 加筆した文字も、同様にして「背景」を ON にします。



※ 印刷時のほか、JWW 書き込み、DWG/DXF 書き込み、SXF 書き込み、外部データ出力、汎用データ化などでも、文字の「背景」ON によるハッチングくり抜きは有効です。ただし、「用紙全体」の状態を入力した汎用文字については対象外です。

※ スペース文字などのシステム文字は、「背景」OFF の場合でも、出力時の設定で「目地抜き処理を行う」が ON になっているとハッチングがくり抜かれます。加筆した文字は対象外です。

※ 出力時、部品は目地抜きのために通常、すべての部品についてクリップ処理を行っています。部品が多くて処理に時間がかかる場合に、「部品クリップ設定」でハッチング上にはない部品をクリップ対象からはずすことにより、処理時間を短縮できます。



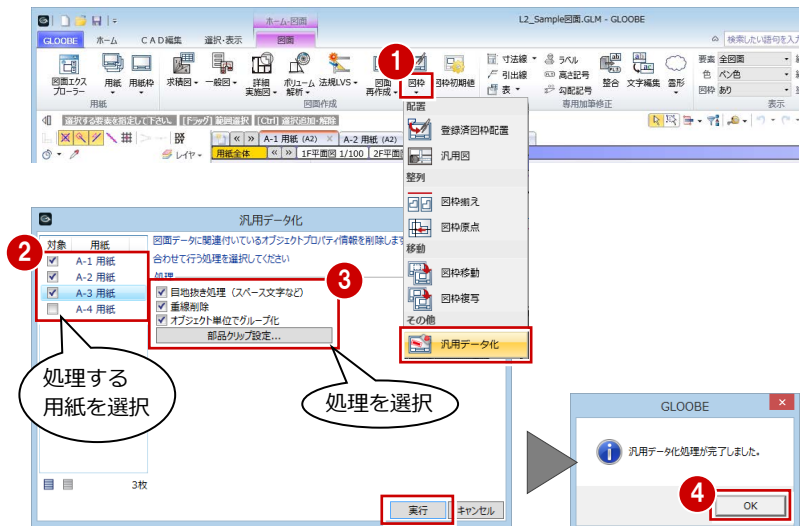
【JWW 書き込み】

6 汎用データ化

最終プランが固まったら、図面データを汎用データに変換すると、2D 汎用の加筆修正がしやすくなります。

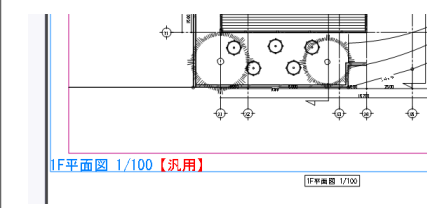
図面を汎用データ化するには

- 1 「図枠」メニューから「汎用データ化」を選びます。
- 2 処理を行う用紙にチェックを付けます。
 「用紙全体」がアクティブなとき、複数の用紙を一括処理できます。図面がアクティブなときは、選択している図面のみ処理します。
- 3 汎用データ化に合わせて行う処理にチェックを付けて、「実行」をクリックします。
- 4 完了の確認画面で「OK」をクリックします。



汎用データ化を行うと、オブジェクトのプロパティ情報を破棄して図面データを 2D データに変換します。
 そのため、汎用データ化した後は、図面の再作成やオブジェクトのプロパティ変更、専用加筆修正コマンドの使用、図面からモデルデータへの運動などができなくなります。

汎用データ化した図面は、図枠の左下に【汎用】と表示されます。



汎用データ化	図面に関連付いているオブジェクトプロパティ情報を削除します。
目地抜き処理	ハッチングを領域データから個別の線分要素に分解し、オブジェクトと重なっているハッチングを削除します。
重線削除	重複しているデータを削除します。
オブジェクト単位でグループ化	汎用データ化された個々の線分や円弧などを、オブジェクト単位でグループ化します。
部品クリップ設定	クリップ処理の対象とする部品を設定します。 部品が多くて処理に時間がかかる場合に、ハッチング上にはない部品をクリップ対象からはずすことにより、処理時間を短縮できます (⇒ P.23 補足参照)。